

G・アダムスキー通信

＜発行の趣旨＞ 真実のコンタクティー（友好的な異星人との会見者）であったアメリカの故ジョージ・アダムスキー。彼が伝えた宇宙の真相と宇宙哲学を広く伝えることを目的に1996年、国際アダムスキー普及会を設立しました。当会では、この目的を達成することで、宇宙（宇宙の意識・友好的な異星人）と地球をつなぐ活動を推進しています。その一環として、宇宙的メッセージの発信と情報交換の場として、G・アダムスキー通信を発刊することといたしました。



冒頭語

真理を悟ったとされる仏陀の中心となる思想は、「一切皆苦（いっさいかいく）」（老・病・死など生きることは苦である）、「諸行無常（しよぎょうむじょう）」（すべてのものは絶えず変化・生滅する）、「諸法無我（しよほうむが）」（すべてのものには永遠不変の実体はなく自分の物にならない）というもので、これらを理解し捉われなければ、「涅槃寂靜（ねはんじやくじょう）」という、煩悩のない静寂で安らかな悟りの境地に入れると教えています。

この教えは、仏陀が地球人として誕生し、自らの肉体を通じて体験した事柄を、そのような事柄に没し、苦悩している周囲の人々に対して分かりやすく伝えたものです。

「一切皆苦」は、暗闇に生きる人々は、生きることがすべて苦になっている現状を伝えていきます。「諸行無常」と「諸法無我」は関連し、すべてのものは変化・生滅し、永遠不変のものではなく、そこで所有欲は空しく我もないと伝えていきます。

この中のすべてという表現は、万物であり、宇宙の中の存在を言っています。つまり、創造物です。物理的存在の創造物の世界では、宇宙の法則が働くことから、それに反する生がすべて苦となるということです。言い換えると、宇宙の法則に則した生が、涅槃（完全な解脱）に入ることです。これは、悟りの境地で、宇宙の意識の世界の話です。

つまり、仏陀は、結果の世界である現実界、宇宙の法則の世界と、宇宙の意識という因の世界を区別しているわけです。仏陀は、肉体人間が現実界で苦悩し、捉われる心を解放し悟る（意識界に生きる）ことの重要性を教えました。そこは永遠の世界なのです。そして、そこへ至るためには、心をコントロールすることの重要性も伝えているのです。

アダムスキーも、上述の事柄と同様なことを伝えていて、それらを理解したうえで、宇宙の意識の世界で生きることの重要性を説いていると解釈しています。これらのことは、人間が、本来の生へ向かう初期の段階で、行わなければならないものなのです。スペースピープルは、その段階（悟り）を経て、揺るがぬ自己を注視し、人としてさらに先を目指して歩んでいるのです。

言葉に注目

＜ 他人に吸収されず理解もされないような知識を伝えることは無益…危険… ＞

G・アダムスキー著『第2惑星からの地球訪問者』（中央アート出版社）

これは、アダムスキーが金星の母船に乗船し、指導者から話を聞いた後の質疑応答での内容です。そこでラミューが、指導者が話した内容で、地球人に知らせてはならない事柄に触れ、地球人が陥りやすい誘惑を指摘したうえで、話してよい事であっても人間の知恵で万人に話すことは不可能であると諭されます。ここで、良識を用いることを確認します。

アダムスキーが、宇宙の法則を人々に伝えて来た経験から表題のようなこと、つまり理解されない知識を伝えることは、無益であるばかりか時には危険だと承知していることを確認。そのように心得て進んで欲しいと語ります。確かにこの指摘は、「生命の科学」の周知においても関係するようなところであり、考えさせられる部分です。

「生命の科学」学習のポイントPart91

今回はレクチャー9『宇宙的細胞と肉体細胞の活動』の「クセの悪い習慣細胞もある」です。

まず、「人体の内部には宇宙的な原理に反して働く細胞があります。」と書き、それは心によって創造された「習慣細胞」であり、勝手な方法で人間を支配しようとしているとしています。

この説明のために「恐怖」を例に、宇宙的な秩序ある組織の中では恐怖は存在しないと、これは心によって作られた外来細胞からくると解説します。続けて、羨望、嫉妬、猜疑なども外来細胞によるもので、人間の成長を妨害しているとしています。

ここでは、人間が持っている「心」が、自己の成長を妨害する邪悪な細胞を創造していると伝えているのです。これを読んでいる人も、自分の「心」で理解していることから、どのように解釈するのかが難しくなりますが、まずは、「心」というのは、常に「意識の声」も「外来細胞の声」も聴くことができると理解する必要があります。

次に、外来細胞は、恐怖などの不快な想念によって培養され、ガン細胞と同じように繁殖すると説明しています。つまり人間が、偏狭な心、邪悪な心を持続けると、不安も募るようになり、悪循環によって外来細胞は増殖していくということです。これは、自らの存在を無くさないようにする戦略であり、あたかも新型コロナのウイルスのように賢く生き残りをかけているようです。

ここで、冒頭から説明していることに触れ、「心は物を創造できる」と明言します。心は、原因から出た結果物であり、その心も同様に結果物を生み出せるということです。そして、「嫉妬、憎悪などのすべては人間の創造物です。」としています。宇宙にはそぐわない「憎悪」などを人間は持ち続けていますが、これこそ人が、真に生きられない理由であると理解されます。

宇宙に“生きる”

<名言格言編91>

“精神一到（せいしんいっとう）何事か成らざらん”

どんな難しいことでも、全精神を集中して努力すれば成し遂げられないことはないという教えです。言い換えれば、全力で真剣に行えば結果は得られるということでしょうか。確かに、現実世界においては、そのような努力が実を結ぶことが多いように思います。



Q：宇宙時代は来るのか？ ※ここでは、よくある質問等をQ&Aとして書いたものです。

A：本件には、何度か答えています。他の惑星との交流の時代が来なければ、地球は、しだいに衰退してゆくでしょう。今でも、見えない形で交流はあるのですが、公然とした交流の時代が来ると考えられます。地球の現況を見ると、そう遠い話ではないと感じています。

書物紹介

『最先端の生命科学を私たちは何も知らない』 吉森 保 著 日経BP

著者は、ノーベル生理学・医学賞に輝いた大隅良典氏とともに研究をしていた大阪大学大学院生命機能研究科教授です。専門は細胞生物学で、特に、細胞内の現象である「オートファジー」の研究者です。これは、大隅氏が切りひらいた分野だそうです。オートファジーは、細胞を再生する機能で、この研究は、病気の解明や寿命の延長につながるものです。以前紹介した「LIFE SPAN」よりやや進んだ部分があり、何より大変読みやすく書かれています。

学習会案内

『生命の科学』学習会。あなたをとおして“宇宙の意識”が輝きますように！

★東京開催★ 2022年1月8日（土）に開催します。不可能な場合は3月12日（土）に開催予定。現在、ZOOMでの学習会を開催しています。詳しくは、HPをご確認ください。

【編集後記】

年末は、やはり慌ただしいですね。しかし、どうにか予定通りの編集となりました。正月は、少しのんびりしたいと思います。

URL：<http://www.7b.biglobe.ne.jp/~adamski/>

G・アダムスキー通信 <第91号>

発行日 令和4年 1月10日

編集発行 国際アダムスキー普及会

栃木県鹿沼市御成橋町 1-3000-1

発行責任 渡 邊 克 明 （禁無断転載）

G・アダムスキー通信

<発行の趣旨> 真実のコンタクティー（友好的な異星人との会見者）であったアメリカの故ジョージ・アダムスキー。彼が伝えた宇宙の真相と宇宙哲学を広く伝えることを目的に1996年、国際アダムスキー普及会を設立しました。当会では、この目的を達成することで、宇宙（宇宙の意識・友好的な異星人）と地球をつなぐ活動を推進しています。その一環として、宇宙的メッセージの発信と情報交換の場として、G・アダムスキー通信を発刊することといたしました。



冒頭語

人は生まれ、学び、様々な経験を通じて成長していくということに異論はないでしょう。この成長というのは、大きく分類すると知識、知恵、愛、忍耐、理性などが幅広く深くなることで、一言でいえば、理解力が高くなることかもしれません。

理解力が高くなるというのは、今まで理解できなかったことが理解できるようになるということです。なるほど、そうかもしれませんが、今まで理解できなかったことが、理解できるというのは、無が有になるということで、良く考えれば不思議なことです。

しかし、物理的な肉体においては、筋力を鍛えることで太く強くすることができます。精神的なところでも、他人の生きざまをまねることで少し進歩することができます。

これらは、まったく無かったものが、有るようになったのではなく、その基礎となる“種”を持っていたと考える必要があります。おそらく、この“種”は、人類のすべてが持っているものの、求めなければ芽を出さないものと思われます。

一方で、この“種”は、人類の幸福につながる良き“種”ばかりではなく、人類を不幸にさせる良くない“種”もあると考えられます。人は、新しき発明や発見により人類に寄与することもできますが、逆に、人類に不幸をもたらす機器等の発明をすることもできます。

このどちらも自由に選択できるのは、肉体人間には、この両方が常に存在するからだと考えられます。つまりこれらは、肉体人間の細胞にあるということです。肉体の細胞が宇宙的な細胞と非宇宙的な細胞からできていて、このどちらにアクセスするかによって、答えが変わってくるものと思われます。厄介なのは、このどちらの細胞も宇宙の意識により生かされていることです。

私たちは、常に宇宙的細胞にアクセスしていけば、良き種が開いて自己の成長につなげてゆくことが期待できます。人間の成長とは、良きことを望んで、宇宙の意識につながるからだと言えるでしょう。反対に、非宇宙的細胞とのつながりを強くしていけば、その細胞が増殖し地獄の実現になるでしょう。これらのことから、心をコントロールすることが大変重要となるのです。

“言葉に注目”

<人間が自己の想念をコントロールしないとき、…他人に対して起こす…危険に気づきません>

G・アダムスキー著『UFO・人間・宇宙』（中央アート出版社）

上述の「・・・」には、次のような言葉が入ります。初めの方は、「自分の気ぜわしい心が」、次は、「かもしれない」です。

続いてアダムスキーは、人間が起こす何らかの想念は空間に放出され、それを制することはできないと言っています。そして、それらは進行して具体的な動きを起こすと説明します。それが、良き想念なら多くの有益なことをもたらし、それが接触する物体すべての内部に調和ある振動を起こすということです。有益でない想念は、空間で有害な働きをして、「肉体的に不調和な状況を起こし、平穏な細胞をすべて混乱させます。」正に、その結果が現状の地球なのでしょう。だからこそ、心のコントロールが重要なこととなるのです。

「生命の科学」学習のポイントPart92

今回はレクチャー9『宇宙的細胞と肉体細胞の活動』の「宇宙的細胞の応援が必要」です。

冒頭で、「異常な悪魔細胞を正常な宇宙的な細胞に変えるには、宇宙的細胞の助けをかりて心が化学的变化を起こさねばなりません。」と書いています。

しかし、これは異常な細胞が自分の権力を失いたくないために、容易なことではないと教えています。このことは、細胞が人格を持っているということです。"自己の権力を失いたくない"とは、正に人間のエゴです。実際には、これらの細胞が集まって、人格としての人間のエゴになっているということでしょう。

そのために、「ときどきあなたは高い発達をとげた人と接触することが必要です。」と書いています。そうした環境が大切だということです。

しかし、この場合は、「生命の科学」に接していない人を含めて、幅広くとらえる必要があります。「生命の科学」を知らない人であっても、高度に発達した人はたくさん存在しています。そのような人との接触ととらえればよいでしょう。

次に、DNAが、正常な細胞のすべてに指示を出していること、各細胞は沈黙しているのではなく指令を伝えあっていると書いてあります。これは、当時の最先端の考え方でしょう。

続いて、「宇宙的細胞は常に悪魔細胞を救出しようとしています。これは心の強力な応援によってなされねばなりません。」と書いています。これが、悪い性癖に化学変化を起こして善良に変える唯一の方法のようです。このことは、心しておかなくてはなりません。

悪魔細胞が、変化に容易に折り合わないために闘争とるわけですが、不快さを気にしないで耐えることを伝えています。そうすることが、「個人的な存在に終わらないで、宇宙的な生活を続けようとするならば・・・」必要であるということです。これは、誰もが目指すべきでしょう。

宇宙に“生きる”

<名言格言編92>

“心ここに在らざれば視れども見えず”

心が他の事にとらわれていると、見ているようでも実際は何も見えていない。心を集中しなければ、事の真相を見抜くことはできないし、身を修めることもできないという戒めです。実際には、この後に「聴けども聞こえず、食えどもその味を知らず」と続きます。



Q：スペースピープルは今も来ている？ ※ここでは、よくある質問等をQ&Aとして書いたものです。

A：もう、来ていないという人もいます。しかし、アダムスキーに関係するスペースピープルは、活動の時を見据えて間違いなく今も来ています。また、活動が停滞しているわけでもありません。いずれ分かるようになると思われますが、それまである程度の忍耐が必要です。

書物紹介

『人類前史 上・下』 グラハム・ハンコック 著 双葉社

著者は、「神々の指紋」などの著書で知られています。この書では、12,800年前のヤングドリラス期初頭に北米大陸に彗星が衝突し、北はグリーンランドから南は南極大陸、東はシリアまで痕跡を残しているという。それにより、高度な文明が滅びているとしています。しかし、その生き残りの人々が、偉大な文明が存在していたことを気づかせるために、星々と関連した巨大な石の造形を残していると推理しています。なかなか興味の持てる書物です。

学習会案内

『生命の科学』学習会。あなたをとおして“宇宙の意識”が輝きますように！

★東京開催★ 2022年11月12日（土）午後1時30分より台東区民会館第1回会議室。現在、ZOOMでの学習会を開催しています。詳しくは、HPをご確認ください。

【編集後記】

意外と余裕で編集できたほうだと思います。令和3年度が間もなく終わり、4月からの令和4年度は、良い年となることを願うばかりです。

URL：<http://www7b.biglobe.ne.jp/~adamski/>

G・アダムスキー通信 <第92号>

発行日 令和4年 3月10日
編集発行 国際アダムスキー普及会
栃木県鹿沼市御成橋町 1-3000-1
発行責任 渡邊 克明 （禁無断転載）

G・アダムスキー通信

<発行の趣旨> 真実のコンタクティー（友好的な異星人との会見者）であったアメリカの故ジョージ・アダムスキー。彼が伝えた宇宙の真相と宇宙哲学を広く伝えることを目的に1996年、国際アダムスキー普及会を設立しました。当会では、この目的を達成することで、宇宙（宇宙の意識・友好的な異星人）と地球をつなぐ活動を推進しています。その一環として、宇宙的メッセージの発信と情報交換の場として、G・アダムスキー通信を発刊することといたしました。



冒頭語

「人はなぜ生きるのか?」。この解は、おそらく「学ぶため」であり、なぜ学ぶのか? については、「人格を高めるため」だと思われます。

これは、宇宙哲学を基本にしながら、古今東西の聖人、偉人の言動や、「論語」や「大学」などの書物から導き出されたものです。しかし、これでは、本当の解に到達していません。さらに進めば、「宇宙の意識の表現体の一つとなりきるため」と言えると思われます。

これは、アダムスキーが伝えたこととほぼ同じ考えです。この「宇宙の意識の表現体の一つとなりきる」と言うのは、言い方を換えると「宇宙の意識」となるということです。この考え方は、宇宙には、「意識」が存在するということを肯定できなくてはなりません。

これは、私たち一般人には、なかなか理解できないところですが、仏陀の仏、孔子の天、老子の道、キリストの父と同じであると考えられます。かつての聖人や偉人は、宇宙における絶対的基準となる存在を認め、それを基本に人々に必要な知識を伝えていたのです。

近年でも、故村上和雄筑波大学名誉教授のように、宇宙における人知を超えた偉大なる何者かが存在しているとして、「サムシング・グレート」と呼んだ人はいました。これをアダムスキーは、「宇宙の意識」と名付けたわけですが、この存在を認め、従うことを善しとする考え方が基本とならなければ、「人間の存在理由」をはじめ「人間はどこへ向かうのか?」、「どんな生活が望ましいのか?」など、わかりようがありません。この地球には、「宇宙の意識」の存在を中心に据えた生き方が、何よりもまして重要なのだと思います。

かつての聖人、偉人等が伝えながらも曖昧とされ、むしろそこに到達させない力が働いたかのような隠された真理が、今こそ、求められているのです。

このことは、何度か伝えているオーソンの言葉、「地球人の苦悩を光の前の暗黒のように消すために「宇宙の創造主」を地球人の道しるべにしよう!」という、地球救済のスローガンそのもののなのです。再度、意に止めて行動していきたいものです。

「言葉に注目」

<他の惑星群の住民は根本的には地球人と変わらないという事実です>

G・アダムスキー著『第2惑星からの地球訪問者』（中央アート出版社）

表題の次に、「他の世界の生命の目的は基本的には地球人のそれと同じです。」と語っています。各個人を比べると、「宇宙の意識」を基準に据えない地球と彼らは、かなり違っているはずですが、このように言っています。ここでは、生命の「存在」そのものの意味を言っているものと考えられます。同じ創造主により、同じ創造目的で存在しているからです。

続いて、「高遠なものにたいして昇華しようという憧れがあります。」と書いています。つまり、こうした感性を少ないながらも地球人も持っているので、彼らと同じであるという意味も含まれています。彼らは、何をすべきかを知っていますが、地球人は知りません。しかし、地球人も、彼らのようにになれる可能性を伝えているということでしょう。

「生命の科学」学習のポイントPart93

今回はレクチャー9『宇宙的細胞と肉体細胞の活動』の「人間の宇宙的半身」です。

冒頭で、「これが達成できると自由というものがわかってきます。」とありますが、これは、前回の「宇宙的細胞の応援が必要」と理解し活用すると、「自由」がわかるということです。その自由とは、「自分の肉体を用いて宇宙空間を旅することができる」ということです。心は、ラジオなどのように「知識の送受信機として働く」と言っています。これが本当の霊的な発達であるということです。

このところは、一般に「テレパシー」、「遠隔透視」あるいは、肉体からの「魂の離脱」による旅行が連想されます。おそらく、一番近いのは「魂の離脱」で、思った瞬間に思った場所へ行って来たという体験談も知られています。中には、宇宙空間へ行ったという話も少なくありません。これらは、臨死体験によるものや偶然に起こったもの、あるいは、機械的に脳波を操作して起こるものなどがあります。しかし、アダムスキーは、自己の操作、コントロールで可能となる手法を伝えています。

文中では、次のように言っています。「この点の発達はまったく「あなた」にかかっています」と。なぜなら、「いままであなたは自己の半身（心）でもって他の半身を探し求めながら、その半身（心）の領域内でほとんどすべてを生きていた・・・」からです。そして、もっと知らなければならないものがあると、自分の宇宙的な半身がささやいていると言っています。

この声は、正常な細胞からテレパシーで「印象」として伝えているということです。肉体がなければ、魂同士でいくらでも意思疎通できるはずですが、しかし、肉体をまとうと、心は、自己の細胞を通して、他者と通信するほかないのだと理解されます。人間は、自己の半身を見つけ、この原理を活用できなければ、霊的な成長はないのかもしれない。

宇宙に“生きる”

<名言格言編93>

“匙（さじ）を投げる”

成功する見込みがないのであきらめるたとえです。例えば、周りの人が、救済しようと再三忠告や支援をしても、どうにも変わらず、あきらめてしまうことを言っています。スペースヒーローが、地球に対して当初から続けている支援も、匙を投げられないようにしたいものです。



Q：貨幣制度は悪？

※ここでは、よくある質問等をQ&Aとして書いたものです。

A：貨幣制度は、物々交換に比べて時期を選ばず、保管できることから良好なものとして生み出されました。基本的な点では問題ないのですが、資本主義の経済行為として、あまりにも複雑かつ投資の役割を担うこと、更に人がお金に固執することが問題なのだと思います。

書物紹介

『デジタル・ファシズム』 堤 未 果 著 NHK 出版

著者は、「貧困大国アメリカ」などの著書で知られ、徹底した取材や調査により現代の背後に潜む危険性をあぶりだしています。本書では、デジタル化を進めることによる利便性の背後に、個人情報抜き取られる危険があるとしています。アマゾン、グーグル、ファーストウェイをはじめとする巨大テック企業が、行政、金融、教育という日本の心臓部を狙っているという。そのような危険性を顧みないデジタル化の推進は、大変なことになると警鐘を鳴らしています。

学習会案内

『生命の科学』学習会。あなたをとおして“宇宙の意識”が輝きますように！

★東京開催★ 2022年11月12日(土)午後1時30分より台東区民会館第1会議室。現在、ZOOMでの学習会を開催しています。詳しくは、HPをご確認ください。

【編集後記】

今回の「生命の科学」学習のポイントは、具体的な説明はなく理解しにくいところです。

“印象”一つにしても訓練が必要となります。

URL：<http://www.7b.biglobe.ne.jp/~adamski/>

G・アダムスキー通信 <第93号>

発行日 令和4年 5月10日

編集発行 国際アダムスキー普及会

栃木県鹿沼市御成橋町 1-3000-1

発行責任 渡 邊 克 明 （禁無断転載）

G・アダムスキー通信

<発行の趣旨> 真実のコンタクティー（友好的な異星人との会見者）であったアメリカの故ジョージ・アダムスキー。彼が伝えた宇宙の真相と宇宙哲学を広く伝えることを目的に1996年、国際アダムスキー普及会を設立しました。当会では、この目的を達成することで、宇宙（宇宙の意識・友好的な異星人）と地球をつなぐ活動を推進しています。その一環として、宇宙的メッセージの発信と情報交換の場として、G・アダムスキー通信を発刊することといたしました。



冒頭語

地球人の知識は、かなり制限されているように感じています。ノーベル賞を受賞した科学者等をすべて並べたとしても、地球人が、知らなければならないことの極めて一部でしかありません。特に、現在の地球では、「生命の科学」分野や「宇宙科学」の分野、それに「哲学あるいは思想」の分野で、最初の一步を歩み出した程度ではないでしょうか。

「生命の科学」分野では、物理的な視点からの研究しかされていませんが、それでは限界があるでしょう。そのため「生命とは何か」、どこから発生するのか、あるいは「テレパシー」に関することなどはわからず、人の生死の関係について何も説明できません。

「宇宙科学」についても、地球人が他の惑星に着陸していない状況ですから、極めて限定的な知の段階です。

「哲学あるいは思想」の分野においても、仏陀やイエスあるいは、人々に良き生き方を伝えた孔子の教えを、実践できる人々は極めて一部であると思われます。多くの人々は、伝えられた真理を知らずにいるのです。加えて地球上には、人々が真理に近づかないようにする力が働いているようです。

それは、「光より早いものは存在しない」あるいは、「人が転生する事実」、「近隣惑星の真実」さらに、「フリーエネルギーの活用」など、知りながらも隠蔽され、情報操作によって歴史を塗り替えるなど、人々を真実から遠ざける力があって無知の状態にさせているのです。これは、多くの人々が気付かないものの大変深刻な大問題なのです。

これらの影響により、「人間とは何者なのか?」、「どのように生きるべきなのか?」という、人間にとって最も基本的なことを顧みることもなく生きているのです。

かつてアダムスキーが伝えた事柄を地球側が歓迎し、受け入れていたなら、このような社会から脱出していたことでしょう。なぜなら、スペースピープルとの交流の時代となり、様々な真実が公となって、一時的な痛みを伴うものの天国の実現に向けて進んでいたはずだからです。

言葉に注目

<現在この世界で、他の惑星の人々の訪問を受けたことのない政府は一つとして存在していません>

G・アダムスキー著『肉体を超えて大宇宙と一体化する方法』（中央アート出版社）

これは、1960年にアダムスキーが、サンフランシスコで行った講演の一部です。続いて、次のように言っています。「私はそれを明確に断言できます。そしてこれまでに異星人たちが政府内部で活動していたことのない主要国家もまた一つとして存在していません。」

これは大変な事実を暴露していることになりますが、アダムスキーは、それを明確に断言できたようです。しかし、すべての各国政府を訪問していても、異星人たちが、すべての国の政府内部にいたということではなく、当時の主要国家といっていますので、第二次世界大戦の戦勝国で先進国だと思われます。そのことから、日本は含まれていないと考えられます。しかしながら、当時、異星人たちが、盛んに各国に働きかけていたことが伺える発言といえます。

「生命の科学」学習のポイントPart94

今回はレクチャー9『宇宙的細胞と肉体細胞の活動』の「印象の種類」です。

初めに、「印象には大別して二つの種類があります」と言っています。一つは、異常な悪魔細胞からくる印象と、もう一つは、宇宙的な性質を帯びた正常な細胞からくる印象の事です。この両方とも電波と同様に全空間に満ちているということです。これは、生命の海の中で行われているとして次のように言っています。「人間にはそのいずれの環境のなかで生きるかを選ぶ自由意志が与えられます」。このどちらを選ぶかは、あなたにかかっているということです。

次に、「現世の最低の表現から最高の表現に至る生命を知ろうと思えば、あらゆる行為を観察する必要がある・・・」と書いています。つまり、「知ろうと思えば・・・」と言うものの自分が望まないことであっても、忌み嫌い避けるのではなく観察する必要があるということです。これは、自己の「学び」という意味が込められています。そして、「・・・因果関係を観察しながら、人間のあらゆる行為の背後にひそむ因子を理解できる・・・」ということです。

というものの常に行方者になる必要はないとして、ボクシングを例に説明しています。「しかし選手の心がどのように働くかを観察することはできます」。このような観察法を身につければ、良き知識を身につけられて、自分のところに来る印象類の型に気づくようになるということです。これを、「知恵というものの始まり」と言っています。ここは、大変重要なところです。

ボクシングの例は、おそらくアダムスキーが、直接、試合を見たことがあるのだと思います。その時の選手の心の働き、これを見ることができたのでしょう。通常は、一方の選手の気持ちになって見てしまいがちですが、そうではなく、高いところから見るように、影響を受けないで客観的に見るということです。これを「自分自身に対する関心を捨てる」と言っています。こうして、肉体内外にある宇宙的細胞からの印象を感受するという事です。

宇宙に“生きる”

<名言格言編94>

“二の足を踏む”

一歩目は踏み出しながら、二歩目は決心がつかず足踏みをする様です。何かをしようと思っても勇気が出ず、あるいは迷いがあってぐずぐずしり込みするたとえです。アダムスキー関連の行動には、慎重さは必要なものの二の足を踏まないようにしたいものです。



Q：世界は進歩している？

※ここでは、よくある質問等をQ&Aとして書いたものです。

A：科学的、社会システム的には進歩しているように思います。しかし、それは良い進歩ばかりではないようです。人間の意識については、進歩している人がいる一方で、かなり遅れている、まだまだ修練の必要な人も増えていると感じています。これをどうとらえるかです。

書物紹介

『知ってはいけない 現代史の正体』 馬淵 睦夫 著 SBクリエイティブ株式会社

著者は、元ウクライナ大使で、防衛大学校教授などを務めた学者です。その活動の中で知れた真実の歴史を人々へ知らせているのが本書です。現世界には、偽りの世界観が横行しているとして、1917年のロシア革命以降、年代順に「通説」に対して「歴史の真相」として、持論を展開しているものです。かなり、一般的な歴史観とは違っています。3年前に書かれたものですが、現在のロシアのウクライナ侵攻の背景も理解できる好書です。

学習会案内

『生命の科学』学習会。あなたをとおして“宇宙の意識”が輝きますように！

☆東京開催☆ 2022年11月12日(土)午後1時30分より台東区民会館第1会議室。現在、ZOOMでの学習会等を休止しています。詳しくは、HPをご確認ください。

【編集後記】

アダムスキーが活躍した時代、SP達が各国に働きかけていたことが改めて感じられます。しかし、それが広がらないということです。

URL：<http://www7b.biglobe.ne.jp/~adamski/>

G・アダムスキー通信 <第94号>

発行日 令和4年 7月10日

編集発行 国際アダムスキー普及会

栃木県鹿沼市御成橋町 1-3000-1

発行責任 渡邊 克明 (禁無断転載)

G・アダムスキー通信

<発行の趣旨> 真実のコンタクティー（友好的な異星人との会見者）であったアメリカの故ジョージ・アダムスキー。彼が伝えた宇宙の真相と宇宙哲学を広く伝えることを目的に1996年、国際アダムスキー普及会を設立しました。当会では、この目的を達成することで、宇宙（宇宙の意識・友好的な異星人）と地球をつなぐ活動を推進しています。その一環として、宇宙的メッセージの発信と情報交換の場として、G・アダムスキー通信を発刊することといたしました。



冒頭語

「右の頬を打つなら、ほかの頬をも向けてやりなさい」。これは、新約聖書の『マタイによる福音書』第39節に登場する有名なイエスの言葉です。彼等の利き手は右手で、対面する相手を打つと左頬になります。ところが右の頬と言っているのは、右手の甲で打つもので、卑しい身分の奴隷を殴る時、手の甲で殴っていたということです。そこで、左頬を差し出すというのは、右手の平で殴らせようというもので、相手を自分と同等にする意味があるということです。イエスは、単純に相手の言いなりになるなと伝えたのだと解釈しているようです。

これとは反対に、文字通り解釈するようになったのは、近世のトルストイやガンジーの影響からというものです。しかし、先の言葉の前に「『目には目を歯には歯を』と言われてきた……。しかし私はあなたに言う。悪人に手向かうな。」続いて、「下着を取ろうとする者には、上着を与えなさい。もし、だれかが、あなたをしいて一マイル行かせようとするなら、その人と共に二マイル行きなさい。」等々の言葉が続きます。

アダムスキーによると、モーゼの時代には理解できなかったから、「目には目を・・・」と伝えていると言っています。

文脈からしても、基本は文字通り解釈することが正しいと思われます。しかし、これは日常生活における出来事での対応ではないかと思えます。それを大事件にも当てはめてみると、国を奪われ支配されるか、放浪の民となるでしょう。このようなことを勧めているとは思われません。

そこで、イエスの意図にそって考えてみると、一言で「相手に寄り添う」ということではないかと思っています。「寄り添う」とは、どこまでも相手の身になって考え、相手を尊重するということで、決して相手に支配されることではありません。これは、争わないということで、話し合いが重要となるようです。そのためには、普段から緊密である必要があるでしょう。

ロシアのウクライナ侵略以降、この言葉が気になる人もいることでしょう。どのような言葉も、その時代に都合の良いように理解するものですが、皆さんはどう解釈するのでしょうか？

“言葉に注目”

<人間は無限に生まれかわる機会を持っているわけではありません>

G・アダムスキー著『UFO・人間・宇宙』（中央アート出版社）

表題の前に、「人間が宇宙の法則に従うことや“宇宙の魂”に個人の魂を没入させることを学ばなければ、本人は個我としての自己の正体を破壊することになるのです」と語っています。

この文章の前に、30億の人間が突然一掃されたら、99%の人類は永遠を知らずに消滅するとしています。こうした教えは、誰も地球上で伝えていないとして、それは、「土星で私に与えられた全く新しい教えであるからです」と言っています。

また、別のところで言っていることですが、アダムスキーは、15～16回の生において、宇宙の意識に気づかず同じ過ちを繰り返していると魂が消滅（記憶が消去される）と教えています。それにしても、人類の99%はその危機にあるということです。心したいものです。

「生命の科学」学習のポイントPart95

今回はレクチャー9『宇宙的細胞と肉体細胞の活動』の「宇宙飛行士のあり方」です。

まず、「地球や宇宙空間は宇宙的性質を帯びています。」と説明します。そして、宇宙飛行士が印象を感受する訓練をしていれば、「彼らは生命の二つの状態の中に生きる好機を持つことになります。」と書いています。

この二つというには、「一つは世間という環境で教育された心」と「宇宙空間に生きているという意識的な知覚」ということです。これによって、「彼らは宇宙的印象を感受する機会を持つ一方、同時にその心は地上で何が起きているかを思考することもできます。」として、「彼らは地上の知識と意識で感じる知識とを比較するための素晴らしい好機を持つ」と言っています。

つまり、地球人として生きて来た「一般的な知識」を基準にしながら、「意識で感じる知識」を比べることができるということです。この「意識で感じる知識」というのは、永遠のドアが開いて「宇宙の英知」に触れることを言っています。すると、「肉体の視覚器官で見える物と見えない物とを考えることになる」、そして、「真実な物とそうでない物とのあいだの相違を知る」と解説します。

少しまとめると、宇宙空間に出ることで宇宙空間に生きていることを自覚し、宇宙的性質を帯びた印象類を通して宇宙の英知に触れ、目で見ることができない物質の背景などがわかり、真実な物が何なのか理解できるようになるということです。

実際、宇宙飛行士の多くが、宇宙空間で「神」を感じるなど、多くの神秘的な体験をしていると伝えられています。これらは、地球上よりやや濃い酸素を吸っているから起こる、との説明もされます。アダムスキーは、宇宙飛行士が帰還しても周囲が、その知識を受け入れるか疑問視しています。正に、そのような事態が起こっていたのだと考えられます。

宇宙に“生きる”

<名言格言編95>

「犬兎（けんとう）の争い」

2人が争っているうちにまふまふと第三者につけこまれ、利益を横取りされてしまうこと。犬が兎を追いかけているうちうちにどちらも疲れ切って死んでしまった。そこへ漁夫がやって来て、容易にその獲物を手に入れたということです。こういうことが世界にはあるようです。



Q：SPは世界を助けないのか？

※ここでは、よくある質問等をQ&Aとして書いたものです。

A：基本は、直接介入はしないで、好きなようにやらせています。しかし、彼らが困るような事態は、地球人に知られないように介入をしているはず。このほか、地球が最後と思われる時には、必ず大々的に介入してくるとみています。さて、どうなるでしょう。

書物紹介

『知の巨人が暴く 世界の常識はウソばかり』 副島隆彦・佐藤 優 著 ビジネス社

副島氏は、民間人国家戦略家。佐藤氏は、元外務省の役人で、お二人とも、かなり知られた存在です。本書は、対談形式のもので、前段は、共産党の歴史などが中心で、細かすぎてやや退屈なところがあります。第3章は、「米中口の世界戦略と日本の未来」、第4章「ディーブ・ステイトの闇」、第5章「間違いだらけの世界の超常識」となっています。いかに世界が宗教問題と関係しているか、そして、西洋哲学の大家についても新しい視点で語っています。

学習会案内

『生命の科学』学習会。あなたをとおして“宇宙の意識”が輝きますように！

☆東京開催☆ 2022年11月12日（土）午後1時30分より台東区民会館第1会議室。11月までは、学習会の予定はありません。詳しくは、HPをご確認ください。

【編集後記】

時々、イエスやブッタに触れますが、宗教的な意味合いはありません。地球で生まれた偉大な指導者として見ています。

URL：<http://www.7b.biglobe.ne.jp/~adamski/>

G・アダムスキー通信 <第95号>

発行日 令和4年 9月10日

編集発行 国際アダムスキー普及会

栃木県鹿沼市御成橋町 1-3000-1

発行責任 渡 邊 克 明 （禁無断転載）